



沼垂の町小路めぐり

〈新潟市中央区沼垂東・沼垂西界隈〉

参考文献
 『新潟歴史双書8 新潟の地名と歴史』(新潟市発行)
 『沼垂定住300年記念誌 めったり!』(沼垂定住300年祭実行委員会)
 『新潟市街歴史案内』看板(新潟市)

※記載した内容には、歴史学的には定説とすることが難しいものも含まれており、いろいろ説があるかと思えます。また、漏れ等もあるかと思いますが、みなさまがまちづくりを考える際に役立てていただければ幸いです。

小路散策の際には、近隣の方や通行する方のご迷惑にならないよう、節度ある行動をお願いいたします。

〈見方・使い方〉
 折りたたんでページをめくるようにしてください。
 裏も同じように真ん中で折り返し、たたんでください。

- イラスト・写真・構成:野内隆裕
- デザイン・本文テキスト:上田浩子
- 協力:新潟市歴史博物館などおよび
- 製作協力:roji-ren niigata



企画制作 新潟市
 新潟市中央区学校通1番町602-1 TEL.025-228-1000
 smart wellness city いしがき

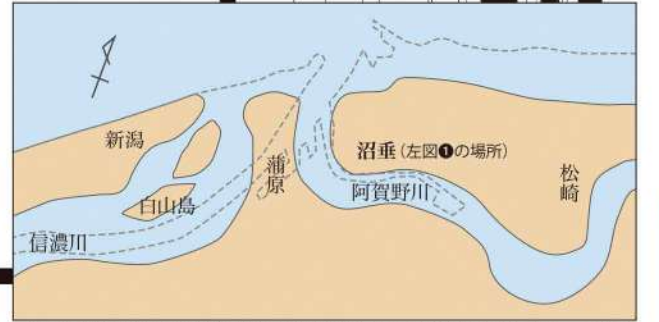
※無断転載・複製を禁じます。 2013.3初版、2013.8第2刷、2014.3第3刷発行

沼垂町の変遷 ~移転してきた町

昔、信濃川と阿賀野川の河口は右図のようになっていました。寛永8年(1631)の洪水で阿賀野川の信濃川への流入が始まり、河口は大きく変化します。王瀬(下図①、現在の山の下の地区の松島から上王瀬)にあった沼垂の町は新発田藩唯一の湊町でしたが、河口の変化によってまちが浸食されたり川底が浅くなったりしたため、寛永年間から現在地に定住する貞享元年(1684)までの約50年の間に4度も移転を余儀なくされました。



沼垂移転の概略位置(『新潟市史』通史編1から作成) 数字は移転の順番とおよその位置



河口付近の推定位置関係(点線は昭和43年)『新潟市史』通史編1所収図から作成、一部改変

沼垂町の移転の変遷

- 1 慶長の頃(1596~1615) 王瀬の地 蔵所 王瀬
 - 2 寛永17年(1640) 王瀬北の地 蔵所 蒲原
 - 3 承応3年(1654) 大島
 - 4 寛文5年(1665) 蒲原町上手 蔵所 馬越(沼垂小)/1683
 ※当時の蒲原町は、現在の越の華酒造(中央区沼垂西)周辺と思われる
- 延宝8年(1680)、沼垂の町は王瀬へ移転しようとしたが、新潟町との湊訴訟に負け移転出来なくなりました(左図)。その後、沼垂の湊は新発田藩のものを扱う船以外の商船の出入りを禁じられ、湊町としての機能を制限されました。

5 貞享元年(1684) 長嶺(現在地)へ移転



貞享元年「沼垂町割絵図」(部分)



御屋敷小路近くには昭和59年(1984)設置の「沼垂定住300年碑」がありますのニャ。

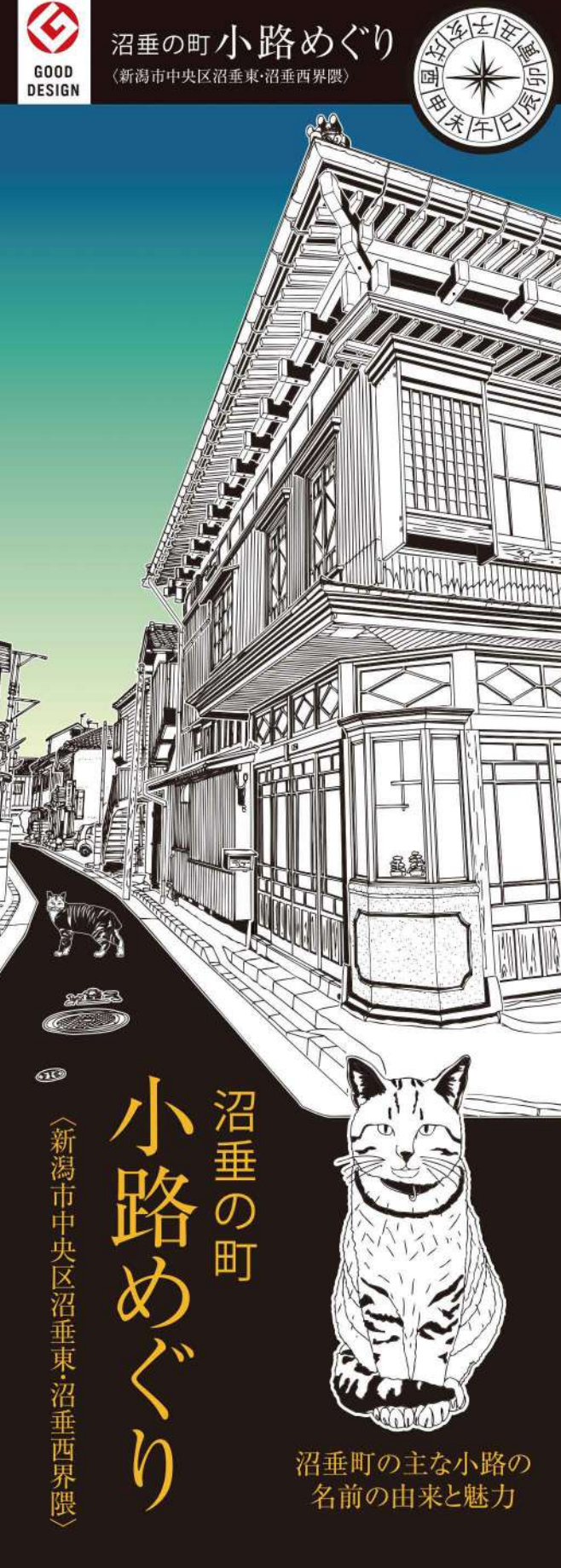
その後、沼垂町は明治22年(1889)に蒲原・長嶺・流作場と合併、大正3年(1914)には新潟市と合併し、現在に至っています。



地図上の★はお宝解説板設置、●は小路めぐり案内板の設置場所二つ!



沼垂小学校(新発田藩蔵所跡)



沼垂の町 小路めぐり

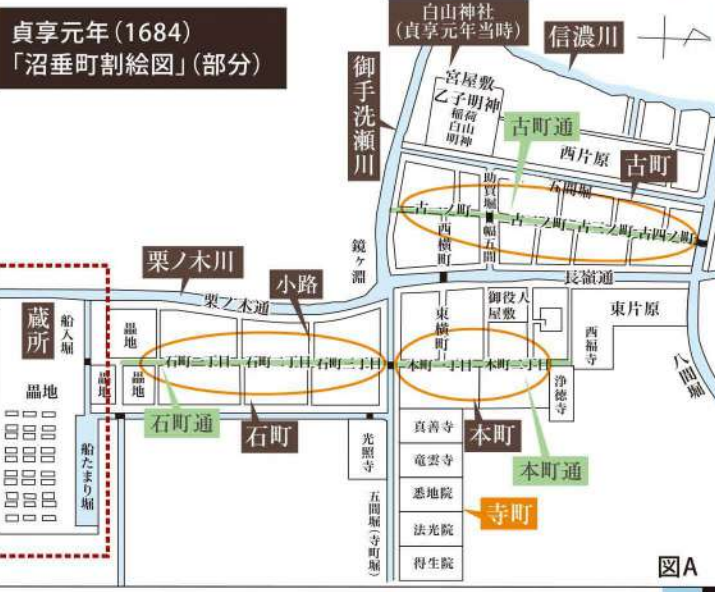
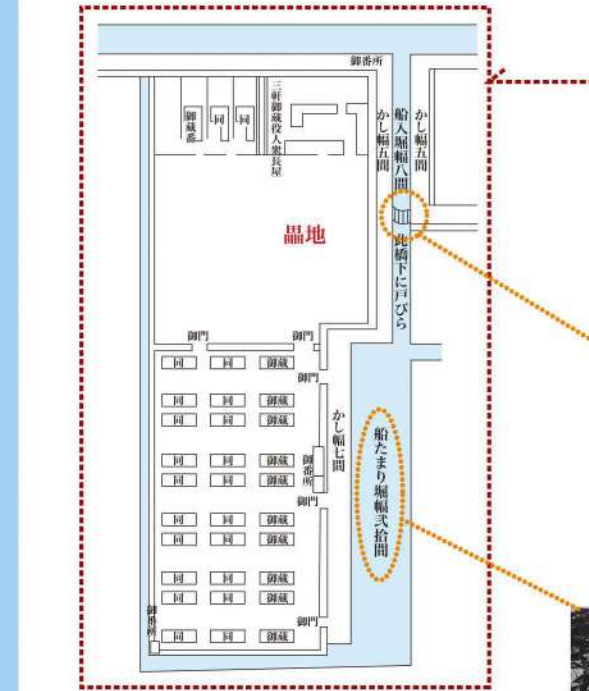
〈新潟市中央区沼垂東・沼垂西界隈〉

沼垂町の主な小路の名前の由来と魅力

- 小路めぐり案内板の位置
- 沼垂の町小路めぐりコース
- - - 古信濃川跡をたどるコース
- 明治初年の沼垂町のおおよそのエリア
- 地図上の水面(薄い水色部)の堀や川岸跡は新潟第一師範学校女子部内新潟県郷土地図研究会編集「新潟市街図」昭和22年(1947)に基づいて作成

沼垂のまちなみ ①蔵所の町

沼垂町には新発田藩の年貢米を管理する蔵所(くらしよ)があり、米を買いに来る船に年貢米を売却したり、関西方面へ向かう船に積み出したりする基地となっていました。蔵所があったのは今の沼垂小学校の場所で、湊から奥まっているのは洪水で浸食されないしっかりした土地を選んだためでした。蔵所は「畠地(らいち)」と呼ばれる防火用の広い空き地に囲まれています。蔵所がいかに大事にされていたかがわかりますね。



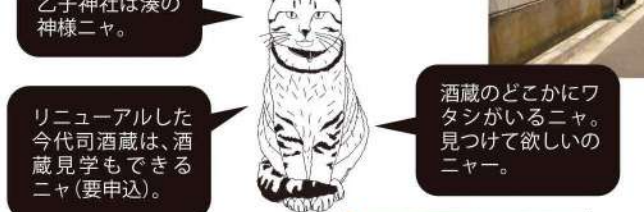
沼垂のまちなみ ②石町エリア

小路でめぐる 白山神社～寺町

沼垂町は栗ノ木川と御手洗瀬川、寺町堀(五間堀)により石町(こくちょう)通、本町通、古町通の3つに区切られていました。石町通は米穀類を取り扱う店が多かったためにこの名がつけられました。堀と川は通りに平行して流れ、小路はそれらを結ぶように走っています。



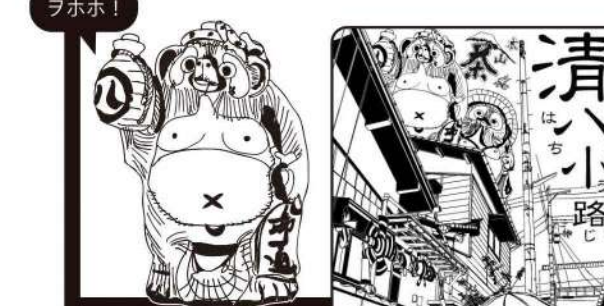
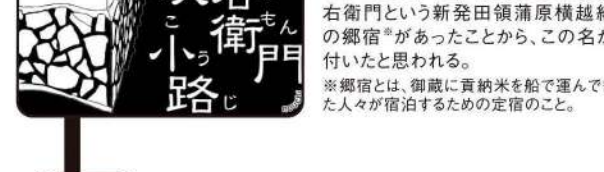
沼垂町の総鎮守白山神社は町の移転や川欠けなどで何度か移転し、享保11年(1726)に現在地に落ち着きました(図A・B)。



1 御役所小路(おやくしよこうじ):江戸時代、白山神社の隣に町役人の役所が置かれたことがあったことから、この名で呼ばれた。



3 太夫小路(たゆうこうじ):小路の角に金子家、二軒目に上田家の二軒の神官の屋敷があった。新潟言葉で神官を「たゆ様(太夫様)」ということから、この名で呼ばれた。



5 清八小路(せいはちこうじ):明治初めの絵図には、小路の角に真野清八の屋敷が記されていることから、その名が由来と思われる。



7 西福寺小路(さいふくこうじ):明治初めの絵図に、西福寺門前と記されている。通りから光照寺に通じる小路であったことから、西福寺小路と呼ばれるようになったと思われる。西福小路と略して呼ばれることも多い。

沼垂のまちなみ ③寺町エリア

小路でめぐる 沼垂寺町と市場

寺が並ぶ寺町は、本町通の東に配置されました。周辺で開かれていた朝市は、昭和30年に寺町堀の埋め立て地(現在地)に移りました。



8 光照寺大門(こうしょうだいまん):明治初めの絵図に、光照寺門前に記されている。通りから光照寺に通じる小路であったことから、光照寺大門と呼ばれるようになったと思われる。



沼垂のまちなみ ④本町エリア

小路でめぐる 沼垂四ツ角界隈

栗ノ木川は栗ノ木通・長嶺通とも呼ばれ、川幅約40mもの舟運の大動脈で、沼垂の町中の堀は栗ノ木川に通じていました。



昔の栗ノ木川と沼垂大橋写真



現在の栗ノ木バイパス 沼垂大橋があった場所

栗ノ木川を挟む道筋「東横町」と「西横町」を結ぶ「大橋」は江戸後期までは栗ノ木川に架かる唯一の橋で、大変繁華でした。現在の万代町通と栗ノ木バイパスの交差点に当たります。

沼垂町の主な町名の変遷(※すべての町名は表示していません)

年代	栗ノ木川上手・東側	栗ノ木川下手・東側	栗ノ木川下手・西側
貞享元年(1684)	蔵所	右町一丁目 本町一丁目	古町
宝永7年(1710)	蔵所	上二ノ町 上四ノ町	古一ノ町(助買町)
文政4(1824)	蔵所	七ノ町 五ノ町 六ノ町	古二ノ町(助買町)
明治初期(1870)	蔵所	東横町五ノ町 東横町六ノ町	古三ノ町(助買町)
昭和30(1957)	蔵所	東横町五ノ町 東横町六ノ町	古四ノ町(助買町)
昭和43(1968)	蔵所	東横町五ノ町 東横町六ノ町	古五ノ町(助買町)

『新潟歴史双書8 新潟の地名と歴史』、『新潟市合併市町村の歴史第3巻』参考

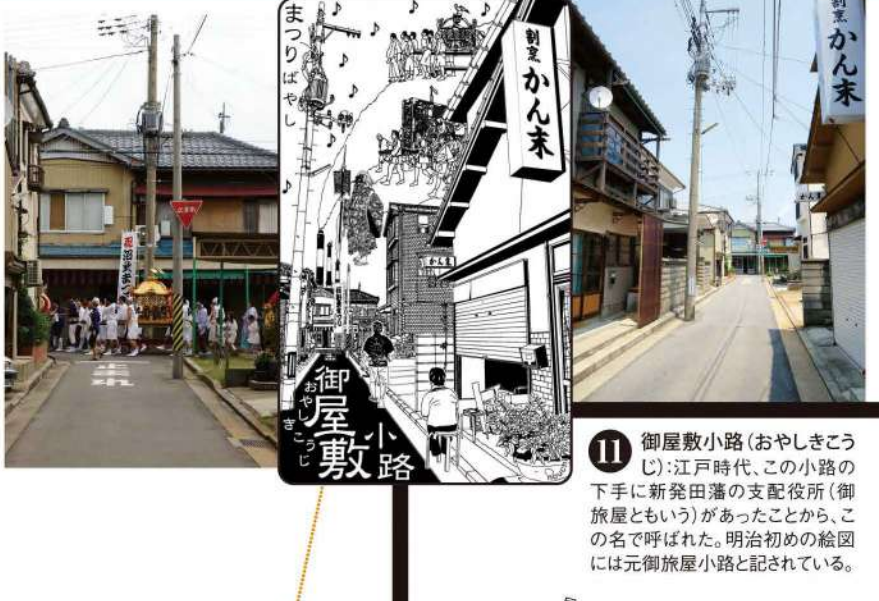
沼垂町では、上二ノ町・西龍ヶ島町・古一ノ町・古稻荷町など江戸時代にできた町の名が、昭和43年(1968)の町名改正まで通称されていました。



沼垂には各町が灯笼を出し練り歩き、四ツ角でぶつけあう祭りがあります。その灯笼には、昔の町名が書かれているんですよ。



昔の沼垂四ツ角(上)と現在の沼垂四ツ角(下)



大正14年築のもと床屋さんの建物



大正14年築のもと床屋さんの建物



大正浪浪



いい雰囲気のスロッドがあるニヤ。ついて来てニヤ。



孫助小路(まごすけこうじ):大正期の地図に孫助小路と記されている。この小路の近くに住んでいた人の名前由来すると思われる。



小甚の小路(こせんのこうじ):この小路の上手に小甚という料理屋が昭和初期まであったことから、この名が付いたと思われる。



浅平小路(あさひらこうじ):昭和初期、この小路を設ける際、浄徳寺住職が土地を寄付したことから、住職の姓(浅平)が小路名の由来となったと思われる。

沼垂のまちなみ ⑤旧沼垂駅前界隈 西・東龍ヶ島エリア

沼垂のまちなみ ⑤旧沼垂駅前界隈 西・東龍ヶ島エリア

文政8年(1825)、沼垂町は栗ノ木川の東側の龍ヶ島一帯を買い上げて造成を開始し、西龍ヶ島・東龍ヶ島の2本の通りと、西龍ヶ島堀・東龍ヶ島堀の2本の堀を作りました。明治30年(1897)11月には、この龍ヶ島地内に北越鉄道(後の信越線)の沼垂駅が現市域初の駅として開業します。駅前(現沼垂東6)は芳原町(吉原町)、日吉町と通称される新開地となり、周辺には石油精製や製紙会社などの大工場が進出しました。大正3年(1914)に沼垂町と新潟市が合併、昭和33年(1958)沼垂駅は旅客営業をやめ貨物駅となり、平成22年(2010)に廃止されました。周辺には駅前当時の名残が残されています。



かつての沼垂駅

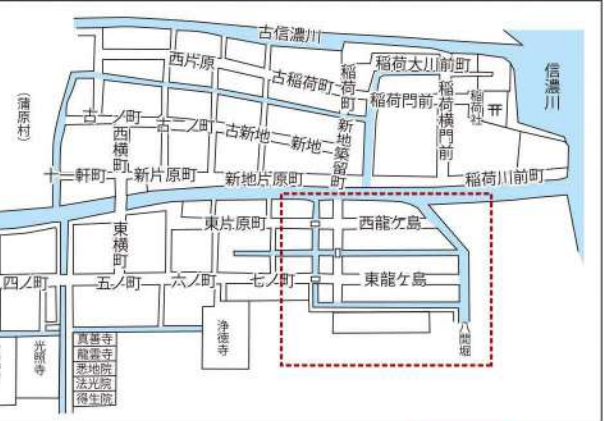


駅前・日吉町

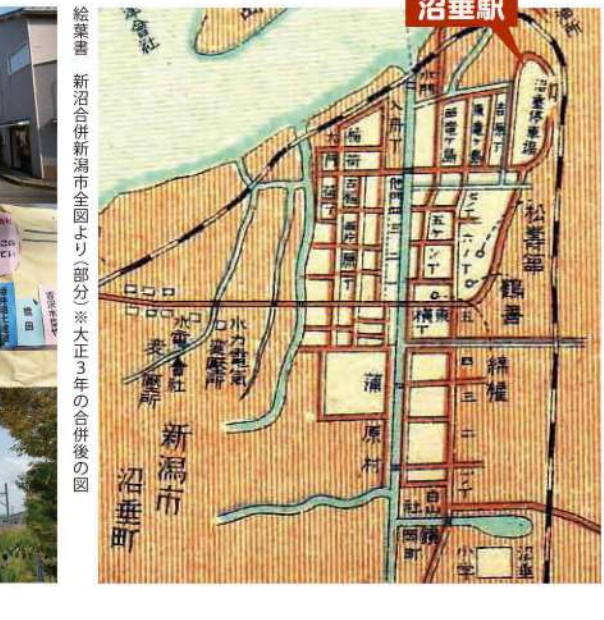
も小松原藤造場の板壁



素敵な蔵(沼垂東5)



新沼垂駅前通より周辺住居の方が作成したポスター、麻線路



新沼垂駅前通より周辺住居の方が作成したポスター、麻線路



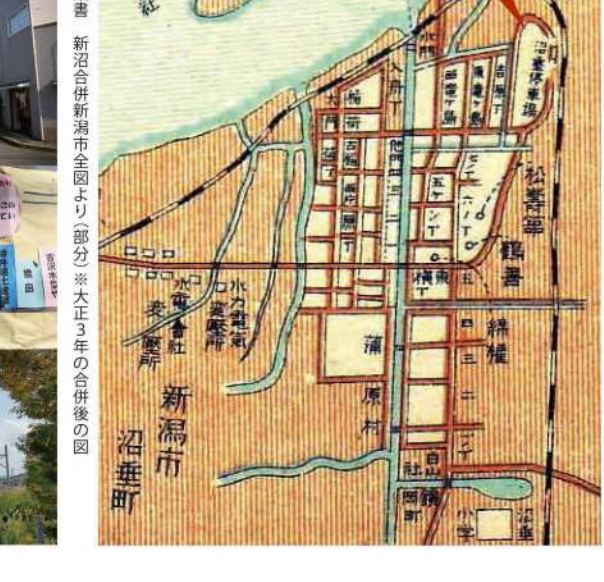
Y字路登場。左は「浅平小路」(沼垂東4)



左の黄色い建物は沼垂東4の「千代の湯」、右は国登録文化財の「佐野商店」ですニヤ。



写真上からかつての駅前通り、周辺住居の方が作成したポスター、麻線路



新沼垂駅前通より周辺住居の方が作成したポスター、麻線路



ほんぽーと新潟市中央図書館
古信濃川跡に沿う位置に建っています。



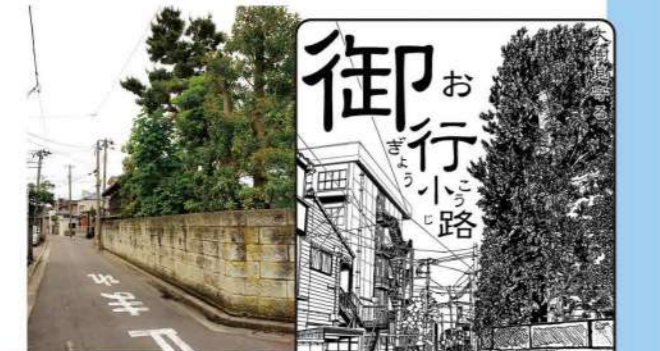
古信濃川跡の碑



三軒町(さんけんちょう): かつての蒲原村の北の玄関口で、昔から三軒の家があったので、その道も三軒町と呼ばれたものと思われる。



新潟市東地区総合庁舎
御手洗瀬川跡に沿う位置に建っています。



船蔵小路(ふなぐらこうじ): 江戸時代、新発田藩が船大工十一人を移住させた町であることから、ここは十一軒町といった。船大工が舟を造る作業所を船蔵といふことから、この名の由来になったものと思われる。



FURUSHINOGAWA



22 百川小路(ももかわこうじ): 明治初期の絵図には、小路の角に百川徳蔵の屋敷が記されていることから、その姓が名の由来と思われる。



20 由兵衛小路(よしべえこうじ): 大正期の地図に由兵衛小路と記されている。この小路の近くに住んでいた人の名前由来と思われる。



19 久八小路(きゅうはちこうじ): 明治初期の絵図には、小路の角に磯島久八の屋敷が記されていることから、その名前が名の由来と思われる。



ぬったり
古町通りの
まちなみ



23 五助小路(ごすけこうじ): 大正期の地図に五助小路と記されている。この小路の近くに住んでいた人の名前由来と思われる。



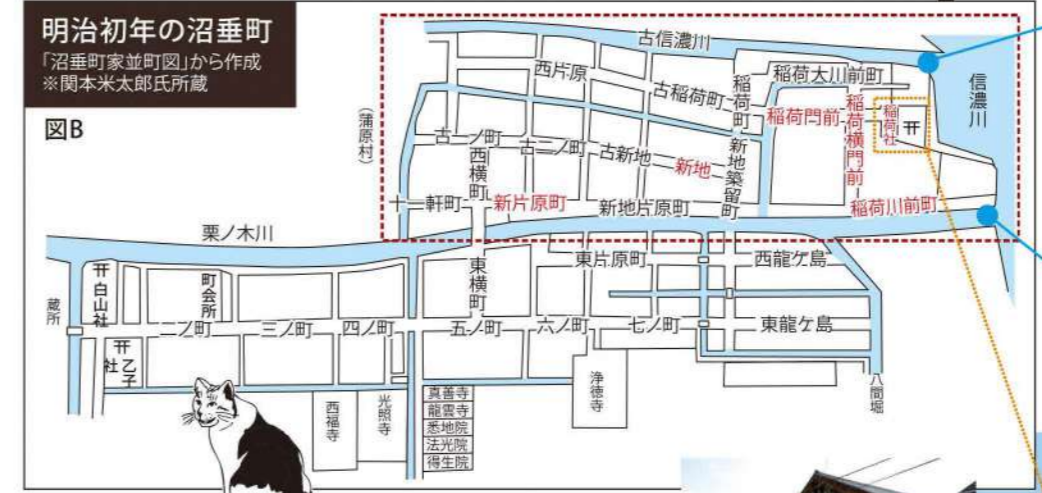
21 吉助小路(きちすけこうじ): 大正期の地図に吉助小路と記されている。この小路の近くに住んでいた人の名前由来と思われる。



24 仁三郎小路(にさんろうこうじ): 大正期の地図に仁三郎小路と記されている。この小路の近くに住んでいた人の名前由来と思われる。



18 仁三郎小路(にさんろうこうじ): 大正期の地図に仁三郎小路と記されている。この小路の近くに住んでいた人の名前由来と思われる。



明治初年の沼垂町
「沼垂町家並町図」から作成
※関本米太郎氏所蔵



17 清左衛門小路(せいざえもんこうじ): 大正期の地図に清左衛門小路と記されている。この小路の近くに住んでいた人の名前由来と思われる。

沼垂のまちなみ ⑥古町エリア
沼垂古町境界 古信濃川と置き返り地

沼垂町は現在地に移転した後も町の西側を信濃川に浸食されました。浸食が止まり、陸地が増え始めたのは延享年間(1744~48)頃からです。信濃川中州と沼垂町間の流路は次第に狭まり、古信濃川と呼ばれました(図C)。



このように、いったん川に浸食された土地が陸地となって再び利用された土地を「置き返り地」といいます。栗ノ木川以西には、置き返り地が再び町並となったところがありました。宝暦3年(1753)には元古二ノ町だった辺りに「新片原町」という町名が、明和6年(1769)の絵図には元古三ノ町だった辺りに「新地」という地名が現れますが、これらは現在の沼垂西1・2丁目と3丁目の一部にまたがる場所で、置き返り地と考えられます(図B)。

古信濃川の出口



万国橋(栗ノ木川出口跡)



湊稲荷神社



沼垂の湊稲荷神社は、浸食のために通船川(旧阿賀野川)対岸の王瀬に移転していましたが、明和6年(1769)、古四ノ町があった所の下手の置き返り地に戻ってきます。文化年間(1804~18)頃には神社の周辺も市街地になり、幕末までに稲荷門前、稲荷横門前、稲荷川前町など神社名の付いた多くの町が出来ました(図B)。

KURINOKIGAWA

MITARASEGAWA